

平成13年12月4日

各関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第2号を送付します。

平成13年度病虫害発生予察特殊報第2号

平成13年12月4日

高知県病虫害防除所

1. 病虫害名 トマトハモグリバエ
(学名: *Liriomyza sativae* Blanchard)
2. 発生作物 キュウリ、メロン、トマト、ミニトマト
3. 発生経過
(1) 平成12年末よりキュウリ、メロンでハモグリバエの被害が見られ、県農業技術センター昆虫科で採取、保管していた標本を平成13年9月、横浜植物防疫所に同定依頼したところ、本県では未確認のトマトハモグリバエであることが確認された。
(2) 平成13年9月～10月に県下の露地キュウリを中心にハモグリバエを採取、県農業技術センター昆虫科で同定を行ったところ、全てトマトハモグリバエであったことから(別表)、本種は県下に広く分布しているものと考えられる。
(3) 本種は中南米原産で、国内では平成11年4月に沖縄県で初めて確認され、同年、山口県、京都府でも確認された。その後、関東以西で発生が拡大し、中国四国地域では香川県、広島県、岡山県で発生が報告されている。
4. 形態
本種は体長1.3～2.3ミリの小型のハエで、成虫、幼虫とも近縁のマメハモグリバエ、ナスハモグリバエと酷似しており識別には実体顕微鏡による成虫の観察が必要である。本種成虫頭部の外頭頂剛毛(vte)の着生部は黒色、内頭頂剛毛(vti)の着生部は黒色と黄色部の境界域であるのに対し、マメハモグリバエ、ナスハモグリバエの同部は黄色である(別図)。また、正確な同定のためには、雄交尾器による確認が必要である。
5. 生態
(1) 卵は、雌成虫が産卵管で葉に開けた穴の内側に産み付けられる。
(2) 幼虫は葉肉内を食害しながら潜行し、発育すると葉の外に出て地表に落下し、土中で蛹化する。葉の絵かき症状や蛹化の方法はマメハモグリバエと酷似し、識別は困難である。
(3) 1世代(卵から成虫になるまで)の期間は、20 で約27日、25 で約18日、30 で約14日である。また、発育零点は9.6 である。
6. 被害及び寄主作物
(1) 幼虫が葉肉内を食害潜行し、絵かき状の被害を発生させる。キュウリでは上位葉まで穿孔が認められ、寄生が著しい場合には葉が白化する。また、マメハモグリバエではあまり問題にならなかったウリ科作物で多発生する傾向がある。
(2) 本種はマメハモグリバエと同様に、ウリ科、ナス科、マメ科、アブラナ科、キク科など極めて多くの植物に寄生する多食性種である。

なお、国内で寄生が確認された植物は以下のとおりである。

ウリ科：キュウリ、メロン、カボチャ、スイカ、シロウリ、マクワウリ、ヘチマ

ナス科：トマト、ナス、ピーマン、ペチュニア、テリミノイヌホオズキ

マメ科：インゲン、ソラマメ、アズキ、ダイズ、ササゲ

キク科：マリーゴールド、ゴボウ、シュンギク

アブラナ科：ハクサイ、キャベツ、ダイコン、カブ、コマツナ、ブロッコリー

アオイ科：オクラ

7. 防除対策

新害虫であるため、現在本種に対する登録薬剤はない。したがって、マメハモグリバエ対策に準じた耕種的防除対策を講じるとともに、他害虫との同時防除で対応する。

- (1) ハモグリバエの食害痕のない苗を確保し、本ぼには持ち込まない
- (2) 施設栽培では、成虫の侵入を防ぐため、施設の開口部に寒冷紗等のネット(1mm目以下)を張る。
- (3) ほ場及びほ場周辺の雑草にも寄主となる植物があるので、ほ場周辺の除草に努める。
- (4) 幼虫等の寄生した植物残渣は、本虫の重要な発生源になるので、ほ場外に出し、土中に埋めるか、ビニールシート等で被覆して虫を死滅させるなどの処理をする。
- (5) 本虫の発生ほ場では収穫終了後、施設を密閉して蒸し込み処理を行い、土中で羽化した成虫を絶食により死滅させるなどして、次作への発生源とならないようにする。
- (6) マメハモグリバエに登録があり、作物登録のある薬剤で同時防除を行う。

8. 引用文献

岩崎暁生ら(2000)：日本におけるトマトハモグリバエ(*Liriomyza sativae* Blanchard)の新発生．植物防疫54(4)：12～17

別表

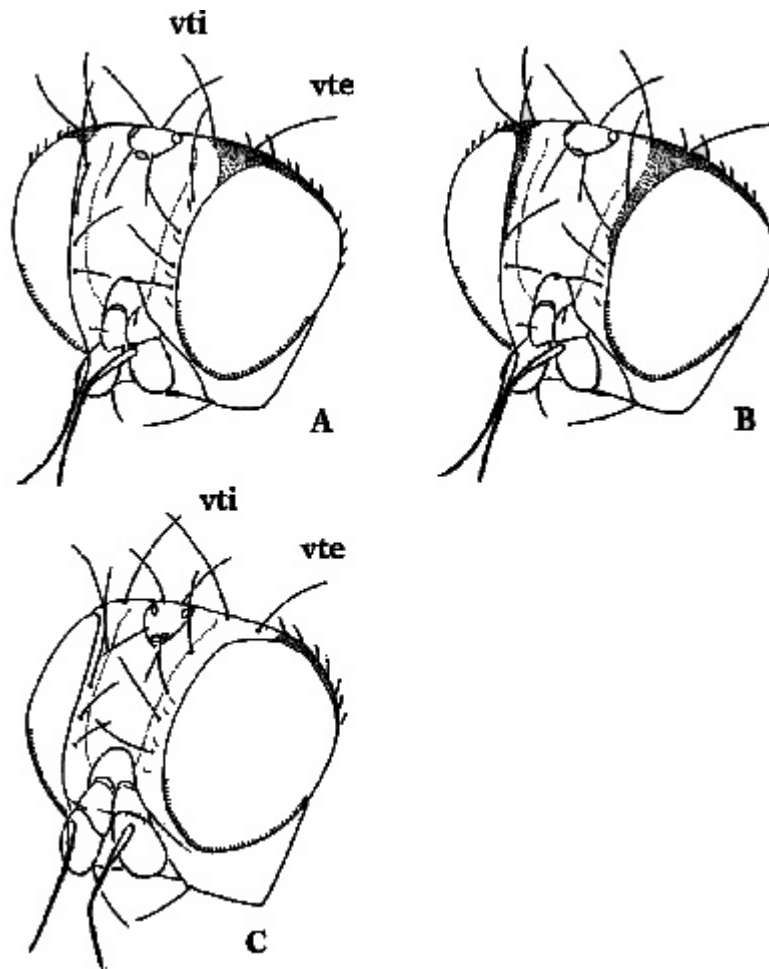
現在までのトマトハモグリバエの発生確認状況

採集場所	採集月日	作物名	栽培様式	備考
南国市廿枝	2000/12/26	メロン	促成	13 園芸年度
土佐市新居	2001/6/25	キュウリ	露地	〃
土佐山田町新改	2001/7/10	キュウリ	露地	〃
安芸市井ノ口	2001/10/15	キュウリ	露地	14 園芸年度
安芸市穴内	2001/10/15	キュウリ	露地	〃
大豊町西峰	2001/9/14	トマト	雨よけ	〃
春野町弘岡下	2001/9/16	キュウリ	露地	〃
春野町森山	2001/9/27	キュウリ	露地	〃
須崎市浦ノ内1	2001/9/10	キュウリ	露地	〃
須崎市浦ノ内2	2001/9/10	キュウリ	露地	〃
窪川町中神ノ川	2001/9/14	ミニトマト	雨よけ	〃
窪川町弘見	2001/10/3	トマト	促成	〃
窪川町向川	2001/10/3	キュウリ	雨よけ	〃
大方町早咲	2001/10/25	キュウリ	施設	〃
土佐清水市三崎	2001/10/12	キュウリ	促成	〃

別図

トマトハモグリバエとマメハモグリバエの頭部

(岩崎暁生ら：日本におけるトマトハモグリバエ (*Liriomyza sativae* Blanchard) の発生 .
2000年 . 植物防疫54(4)より)



*Liriomyza*属の頭部 (岩崎原図)

A : トマトハモグリバエ B : トマトハモグリバエ (暗色)

C : マメハモグリバエ

平成13年度病害虫発生予察特殊報第2号(トマトハモグリバエ)参考資料



写真1：トマトハモグリバエ成虫



写真2：トマトハモグリバエ蛹



写真3：キュウリでの被害痕



写真4：トマトハモグリバエ成虫頭部



写真5：マメハモグリバエ成虫頭部